SEKONIC

DIGI LITE

L-318 使用説明書

お買い上げ
ありがとう
ございます

※使用前にこの説明書を必ずお読みいただき
このL-318の性能を十分にご活用ください。

各部の名称

①光球
（白色平板光、角度板と交換できます）

②液晶表示部
（右図参照）

③ISOキー

④F/EVキー

⑤受光部ヘッド
（270°回転します）

⑥電源スイッチ
（上 ON
下 OFF）

⑦測光スイッチ

⑧アップダウンスイッチ

⑨電池ふた

⑩ストラップ掛け

⑪白色平板

⑫光角度板

表示

①電源スイッチONしたときb.cの文字表示
②測定値F値の整数項表示
（1.0～90）
③測定EV値の整数項表示
（－4～24）

ISOキーとアップダウンスイッチの操作によりフイルム感度が表示されます
（ISO3～8000）

F/EVキーの操作より[F]又は[EV]が表示されます

F1～90の印刷文字でメモとして使用してください

ISO 8800
F EV 8.8 T m s 8880
1 1.4 2 2.8 4 5.6 8 11 16 22 32 45 64 90

①電源スイッチONにしたとき電池容量の表示
（▁・_～⁚'''⁚）
②測定F値、EV値の小数項の表示
（▁・_(0.1)～⁚'''⁚(0.9)）

アップダウンスイッチの操作により設定タイムが表示されます
30m～1/8000s
mは分　sは秒
m、sなしで1/n秒表示

仕様

測定、測光方式	●アタッチメント交換による入射光式、反射光式兼用、定常光用デジタル露出計
測定範囲	●EV 0～19 ⁚'''⁚(ISO100)
くり返し精度	●±0.1EV
受光部	●入射光式……光球、白色平板 ●反射光式……光角度板(受光角54°) ●受光素子……シリコンフォトダイオード
校正定数	●C＝340 、K＝12.5
表示数値	●ISO(フイルム感度) 3～8000(1/3SV単位) ●T(シャッター速度) 30分～1/8000秒(ITV単位) ●F(絞り) 1.0～90 ●EV(露出値) －4～24 ●F.EVの小数項(0.1EV単位) ▁・_(0.1)～⁚'''⁚(0.9)
その他の表示	●測定範囲外E.U(アンダー) E.O(オーバー) ●測定モード[F] [EV] [T] ●バッテリーチェック b.c⁚'''⁚～▁・_
使用電池	●単Ⅲ乾電池(1.5V) 1本(LR-6、R-6)
標準付属品	●光球、白色平板、光角度板、ストラップ、電池
大きさ、重さ	●121×64×23mm 約110g(電池含まず)

※この取扱い説明書に記載の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

測定の準備

1 電池を入れます

1 電池ふた⑨の凹凸部に指をかけ押しながら矢印の方向に引いてはずします。

2 電池の⊕⊖を電池ケース内の表示に合せて⊖側を先に入れ⊖側に指で押すようにして挿入します。

3 電池ふたを本体に合せ、スライドさせて取りつけます。

4 電源スイッチ⑥を上側に押してONすると液晶表示部②にb.c文字と電池容量が表示され、そのあと測定モードに切換ります。
［電池容量が少なくなるとドット表示が少なくなり、不足するとb.c文字の点滅、又は表示がされません。］

b.c
1 1.4 2 2.8 4 5.6 8 11 16 22 32 45 64 90
↓
ISO 100
F 0 T 125
1 1.4 2 2.8 4 5.6 8 11 16 22 32 45 64 90

注意
- 電池を入れるとき電池の接点の汚れをふいてください。
- 電池の取り外しは⊕側に指先をかけて⊖側に押すようにして取外してください。⊖側より外すと接片をいためることがあります。
- ONの状態で放置しますとオートオフが働き約4分後に自動的に液晶表示が消えます。再度使用するときは電源スイッチを1度OFFにし、次にONしてください。
- 電池電圧が低下した電池は、一時的にb.c表示がされますが、異常な表示をすることがあります。このようなときは新しい電池と取りかえてください。
- 充電式の電池(KR-AA)は使用できません。

2 フイルム感度(ISO)を合せます

- 電源スイッチ⑥ONの状態でISOキー③を押したまま、アップダウンスイッチ⑧の操作でフイルム感度を変換します。

(例) 右の下図は、上図よりISOキーを押したまま、アップダウンスイッチの▲側を6回押して変換した図です。

- ISOキーを押したまま、アップダウンスイッチの▲又は▼側を1秒以上押すと、押している間ISOの数値が0.3秒間隔で連続変換されます。
- 設定されたISOの数値は、電源スイッチをOFFにしても電池が有効な間メモリーされています。

ISO 100
F 0 T 125
1 1.4 2 2.8 4 5.6 8 11 16 22 32 45 64 90

ISO 400
F 0 T 125
1 1.4 2 2.8 4 5.6 8 11 16 22 32 45 64 90

3 タイム(T)を合せます

- 電源スイッチ⑥ONの状態でアップダウンスイッチ⑧の▲又は▼マーク側を押して使用するタイムに合せます。

(例) 右上図のときアップダウンスイッチの▼側を1度押すと下図のようになります。

- アップダウンスイッチの▲又は▼マーク側を1秒以上押すと押している間、0.3秒間隔で連続変換されます。
- 設定されたタイムの数値は電源スイッチをOFFしても電池の有効な間メモリーされています。

ISO 400
F 0 T 125
1 1.4 2 2.8 4 5.6 8 11 16 22 32 45 64 90

ISO 400
F 0 T 60
1 1.4 2 2.8 4 5.6 8 11 16 22 32 45 64 90

4 測定モード(F/EV)の切り換え

測定モードは絞り[F]、タイム[T]の組合せ測定モードとEV測定モードの切り換えができます。

- ONの状態でF/EVキー④を押すと[F] [EV]表示モードが交互に切り換えができます。

※電源スイッチ⑥OFF後、再度ONの場合は[T]、[F]組合せ表示になります。

ISO 100
F 0 T 125
1 1.4 2 2.8 4 5.6 8 11 16 22 32 45 64 90

ISO 100
EV 0
1 1.4 2 2.8 4 5.6 8 11 16 22 32 45 64 90

5 受光部アタッチメントの取りつけ

この露出計は受光部アタッチメント交換式です。測定目的に応じてアタッチメントを取りつけてください。

1 受光部ヘッド⑤の凸部とアタッチメントの凸を合せてはめ込みます。

2 時計方向にクリックするまで回します。

3 受光部ヘッドは270°回転しますが各アタッチメントに適応した角度で、液晶表示部②の読み安い方向で測定してください。

入射光推しょう範囲

反射光推しょう範囲

※入射光式は図の様に液晶表面側±45°以内で測定することをおすすめいたします。

測定

1 測定範囲内の表示

フイルム感度(ISO)、タイム、受光部アタッチメントのセットをすませてください。

1 電源スイッチ⑥をONにします。

図A

2 露出計本体を正しく保持し測光スイッチ⑦を押します。

3 そのとき表示されたタイムと絞りの組合せが適正露出になります。

- この露出計は測光スイッチを押している間測光値は明るさに応じて変化します。
- 測光スイッチを離したときの表示は、オートオフ又は電源スイッチOFFまでロックされています。

2 測定範囲外の表示

下図の表示が測定範囲外の表示です。

※上図のような表示がされた場合F/EVキーでEV表示に変換して測定値が表示されれば、タイム変換によってTとFの組合せ表示ができます。

※EV表示でもEU EOであれば測定範囲外です。

3 測定後の演算

- フイルム感度を変更する場合は、測定後、ISOの変換により測定値の演算が自動的に行なわれます。
- 測定後タイムの変換をするとF値の演算が自動的に行なわれます。
- F/EVキー④を押すことによってF・Tの組合せ表示、EV値演算切換表示がされます。

図A表示よりISO100と400に変換した例（F8がF16に変わる）

4 ムービーカメラの場合

- 測定は通常の場合と同じです。表からコマ数(8、16、32……）に対応した、シャッター速度をセットして測定してください。
- なお、中間の12、18、24コマなどは表の補正量を参考にフイルム感度(ISO)で補正の上測定願います。

ムービーコマ数	8	12	16	18	24	32	64	128
シャッター速度(T)	15	1/30			1/60		1/125	1/250
補　正　量	0	+1/3	0	−1/3	+1/3	0	0	0

- −1/3補正：使用するISO感度より1つ小さい値にセットします。(例 ISO40→ISO32)
- +1/3補正：使用するISO感度より1つ大きい値にセットします。(例 ISO40→ISO50)

入射光式測定の場合

- この方法は被写体に当る明るさを直接測る方法です。ほとんどの被写体に対して明暗比を忠実に再現し画面全体が自然な調子で描写できる露出が簡単に得られます。
- 入射光式測定は被写体のバックの影響を受けず被写体に対して平均的な露出値を求める時に適しています。

A 光球①を用いて

- ポートレートその他立体的な被写体を撮影するときに用います。
- スタジオ等で人工光で撮影するときはかならず被写体位置に露出計をおき光球をカメラの光軸方向に向けて測定してください。

- 自然光(太陽光)で撮影するときは被写体とカメラの位置の光線状態が同じならカメラ位置で測定することができます。

※被写体が発光体の場合は光球白色平板では測定できません。

B 白色平板⑩を用いて

照明コントラストの測定

多灯ライティングを行い主光源、補助光源等で被写体にコントラストをつけると明暗比のある立体的な写真を撮ることができます。

1 測定モードをEVモードにします。

2 被写体位置で白色平板を主光源に向けて測定し、そのときのEV値を読みとります。

3 次に被写体位置で白色平板を補助光源に向けて測定します。（このときは主光源を消してください）

4 図のように主光源と補助光源の差は、2EVでコントラスト比は4：1になります。

5 露出の決定は光球をつけて主光源、補助光源を点灯させて光球をカメラの光軸に向けて絞りとタイムの組合せ測定を行います。

EV目盛の差	コントラスト比
1	2：1
1½	3：1
2	4：1
3	8：1
4	16：1
5	32：1

反射光式測定の場合

- この方法は被写体の反射光を測る方法です。

測定方法

カメラ位置、又はカメラ位置方向から被写体の測定したいヶ所に光角度板⑫を正しく向けて測定してください。

Aで測定してください。
近づけないときはBでも構いません。
ません。

- ポートレートの場合はできるだけ近づいて顔の部分を測定してください。
  屋外で太陽光で測定の場合カメラ位置でご自分の手の平を被写体と同じ光線状態にし測定してもかまいません。
- 一般風景の場合は、標準反射板(18%)を利用してカメラ位置で被写体と同じ光線状態にして測定してください。
- 発光体(ネオンサイン等)や透過光の場合は入射光式では測定できませんので、反射光式で測定してください。

簡易照度計として測定の場合

照度(ルクス)の測定

白色平板⑪を使用して簡易照度計として概略の照度を測定することができます。

1 ISOを100、EV測定モードにセットします。

2 白色平板と測定面と平行にして測光スイッチ⑦を押します。

3 測光されたEV値より計算で求めることができます。

照度(LX)$=3.4\times2^{EV}$

(例)図の値ではEV9.5

$LX=3.4\times2^{9.5}=3.4\times724\fallingdotseq2400LX$

又、下記簡易対比表よりも求められます。

小数＼整数	0	1	2	3	4	5	6	7	8
_ ・ _	3.4	6.8	14	27	54	108	218	435	870
(表示) _	4.8	9.6	19.0	38	76	152	300	600	1200

9	10	11	12	13	14	15	16
1740	3500	7000	14000	28000	56000	111000	223000
2400	4800	9800	19600	39400	78800	157000	315000

アフターサービスについて

☆弊社の製品には一定の期間内無料修理をお引受けする保証書が添付されておりますので、記載事項をお確かめのうえ販売店よりお受取りください。なお保証書の再発行は致しませんので、取扱説明書と併せて大切に保管してください。

● 無料保障期間などについて

①無料保障期間はお買上げ日より1ヵ年間でございます。

②保証書にお買上げ日および販売店名のないものは保証の対象になりませんので、必ずお確かめください。

③無料保証期間内でも有料修理となる場合もございますので、保証書の記載事項をお確かめください。

④保証期間経過後の修理は有料となります。また、運賃諸掛りはお客様にご負担願います。

● 補修用性能部品の保有期間などについて

①補修用性能部品は5年間を目安に保有しております。したがって、本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお故障箇所によりましては期間が過ぎても修理可能の場合もありますのでサービスセンターにお問合せください。

②修理可能期間はご使用の状態や環境、お手入の状態などによって異なる場合がありますので、現品をご持参のうえお買上げ店またはサービスセンターにご相談ください。

③修理可能期間内でも浸冠水、強度のショック、その他損傷のいちじるしいもので、修理後の機能維持に問題が残ると思われますものにつきましては修理不可能となる場合があります。

● 修理ご依頼時における留意事項

①修理品につきましては、故障内容を、またご指定の修理箇所があります場合には、その指定箇所をできるだけ具体的にお申し出ください。
ご指定のない場合には、各部点検をはじめ品質的、性能的に必要と認められるすべてのところを検査・調整・修理することになり、修理料金が加算される場合がありますのでご留意ください。

②修理をご依頼されたものの中には、単に電池を交換するだけで正常に作動する「故障していないもの」が見受けられます。電池の容量低下、⊕⊖の逆、定格違いなどについて、よくお確めください。

● 転居の場合の手続きについて

①転居で販売店にご依頼しにくい場合は、最寄りのサービスセンターにご相談ください。

● お問合せ先きについて

本製品の保証、修理、使い方などのお問合せは、最寄りのサービスセンターをご利用ください。

取扱上の注意

お買い上げいただいたSEKONIC DIGI LITE L-318は多くの電子部品で構成された精密電子機器ですので、下記の点にご注意ください。

a・落下、または急激な衝撃は絶対にさけてください。
b・極度の高温、多湿な場所には保管しないでください。
c・光球、白色平板は傷がつかないように、また常に清潔に保つようにしてください。
d・余分な電池の消もうを避けるため、使用時以外は、できるだけ電源スイッチをOFFにしてください。
e・この露出計の使用温度範囲は、0℃～+40℃です。

万一故障がおきましたときには、最寄の営業所、またはサービス・センターにお持ちください。
お近くに、営業所またはサービス・センターがなく郵送される場合には厚さ3cm以上の衝撃よけパッキングに包んでから、段ボールなどで梱包してください。

〈本社・営業部〉 東京都練馬区大泉学園町7-24-14 〒177 ☎03(978)2330(営業直通)
〈大阪営業所〉 大阪市東区本町2-25 本町ビジネスビル 〒541 ☎06(263)1571
〈名古屋営業所〉 名古屋市中区栄5-8-14 万国ビル 〒460 ☎052(251)6201
〈東京サービスセンター〉 東京都新宿区市ヶ谷田町3-8 新杵ビル 〒162 ☎03(269)7241

SEKONIC
DIGI LITE
L-318 使用説明書

お買い上げ
ありがとう
ございます

※使用前にこの説明書を必ずお読みいただき
このL-318の性能を十分にご活用ください。

各部の名称

⑪白色平板　⑫光角度板

表示

- ①電源スイッチONしたときb.cの文字表示
②測定値F値の整数項表示 (1.0~90)
③測定EV値の整数項表示 (−4~24)
- ISOキーとアップダウンスイッチの操作によりフイルム感度が表示されます (ISO3~8000)
- F/EVキーの操作より[F]又は[EV]が表示されます
- F1~90の印刷文字でメモとして使用してください
- ①電源スイッチONにしたとき電池容量の表示 (~)
②測定F値、EV値の小数項の表示 ((0.1)~(0.9))
- アップダウンスイッチの操作により設定タイムが表示されます
30m~1/8000s
mは分　sは秒
m, sなしで1/n秒表示

ISO 8800
F EV 8.8 T m s 8880
1 1.4 2 2.8 4 5.6 8 11 16 22 32 45 64 90

仕様

測定、測光方式	●アタッチメント交換による入射光式、反射光式兼用、定常光用デジタル露出計
測定範囲	●EV 0~19 (ISO100)
くり返し精度	●±0.1EV
受光部	●入射光式……光球、白色平板 ●反射光式……光角度板(受光角54°) ●受光素子……シリコンフォトダイオード
校正定数	●C=340、K=12.5
表示数値	●ISO(フイルム感度) 3~8000(1/3SV単位) ●T(シャッター速度) 30分~1/8000秒(ITV単位) ●F(絞り) 1.0~90 ●EV(露出値) −4~24 ●F.EVの小数項(0.1EV単位) (0.1)~(0.9)
その他の表示	●測定範囲外E.U(アンダー) E.O(オーバー) ●測定モード[F] [EV] [T] ●バッテリーチェック b.c ~
使用電池	●単III乾電池(1.5V) 1本(LR-6、R-6)
標準付属品	●光球、白色平板、光角度板、ストラップ、電池
大きさ、重さ	●121×64×23mm 約110g(電池含まず)

※この取扱い説明書に記載の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

測定の準備

1 電池を入れます

1. 電池ふた⑨の凹凸部に指をかけ押しながら矢印の方向に引いてはずします。
2. 電池の⊕⊖を電池ケース内の表示に合せて⊖側を先に入れ⊖側に指で押すようにして挿入します。
3. 電池ふたを本体に合せ、スライドさせて取りつけます。
4. 電源スイッチ⑥を上側に押してONすると液晶表示部②にb.c文字と電池容量が表示され、そのあと測定モードに切換ります。

［電池容量が少なくなるとドット表示が少なくなり、不足するとb.c文字の点滅、又は表示がされません。］

b.c
1 1.4 2 2.8 4 5.6 8 11 16 22 32 45 64 90

ISO 100
F 0 T 125
1 1.4 2 2.8 4 5.6 8 11 16 22 32 45 64 90

注意
- 電池を入れるとき電池の接点の汚れをふいてください。
- 電池の取り外しは⊕側に指先をかけて⊖側に押すようにして取外してください。⊖側より外すと接片をいためることがあります。
- ONの状態で放置しますとオートオフが働き約4分後に自動的に液晶表示が消えます。再度使用するときは電源スイッチを1度OFFにし、次にONしてください。
- 電池電圧が低下した電池は、一時的にb.c表示がされますが、異常な表示をすることがあります。このようなときは新しい電池と取りかえてください。
- 充電式の電池(KR-AA)は使用できません。

2 フイルム感度(ISO)を合せます

- 電源スイッチ⑥ONの状態でISOキー③を押したまま、アップダウンスイッチ⑧の操作でフイルム感度を変換します。

(例) 右の下図は、上図よりISOキーを押したまま、アップダウンスイッチの▲側を6回押して変換した図です。

- ISOキーを押したまま、アップダウンスイッチの▲又は▼側を1秒以上押すと、押している間ISOの数値が0.3秒間隔で連続変換されます。
- 設定されたISOの数値は、電源スイッチをOFFにしても電池が有効な間メモリーされています。

ISO 100
F 0 T 125
1 1.4 2 2.8 4 5.6 8 11 16 22 32 45 64 90

ISO 400
F 0 T 125
1 1.4 2 2.8 4 5.6 8 11 16 22 32 45 64 90

3 タイム(T)を合せます

- 電源スイッチ⑥ONの状態でアップダウンスイッチ⑧の▲又は▼マーク側を押して使用するタイムに合せます。

(例) 右上図のときアップダウンスイッチの▼側を1度押すと下図のようになります。

- アップダウンスイッチの▲又は▼マーク側を1秒以上押すと押している間、0.3秒間隔で連続変換されます。
- 設定されたタイムの数値は電源スイッチをOFFしても電池の有効な間メモリーされています。

ISO 400
F 0 T 125
1 1.4 2 2.8 4 5.6 8 11 16 22 32 45 64 90

ISO 400
F 0 T 60
1 1.4 2 2.8 4 5.6 8 11 16 22 32 45 64 90

4 測定モード(F/EV)の切り換え

測定モードは絞り[F]、タイム[T]の組合せ測定モードとEV測定モードの切り換えができます。

- ONの状態でF/EVキー④を押すと[F] [EV]表示モードが交互に切り換えができます。

※電源スイッチ⑥OFF後、再度ONの場合は[T]、[F]組合せ表示になります。

ISO 100
F 0 T 125
1 1.4 2 2.8 4 5.6 8 11 16 22 32 45 64 90

ISO 100
EV 0
1 1.4 2 2.8 4 5.6 8 11 16 22 32 45 64 90

5 受光部アタッチメントの取りつけ

この露出計は受光部アタッチメント交換式です。測定目的に応じてアタッチメントを取りつけてください。

1. 受光部ヘッド⑤の凸部とアタッチメントの凸を合せてはめ込みます。
2. 時計方向にクリックするまで回します。
3. 受光部ヘッドは270°回転しますが各アタッチメントに適応した角度で、液晶表示部②の読み安い方向で測定してください。

入射光推しょう範囲

※入射光式は図の様に液晶表面側±45°以内で測定することをおすすめいたします。

測定

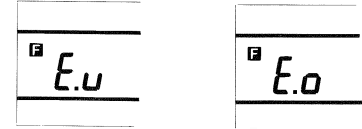
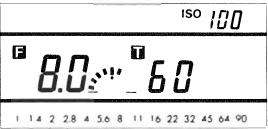
1 測定範囲内の表示

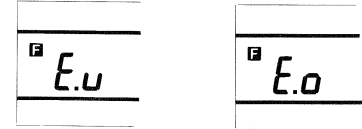
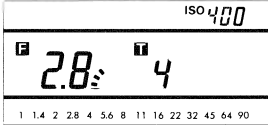
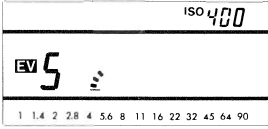
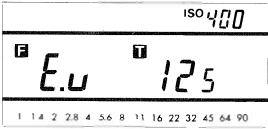
フィルム感度(ISO)、タイム、受光部アタッチメントのセットをすませてください。

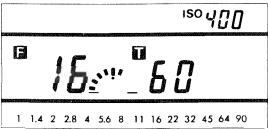
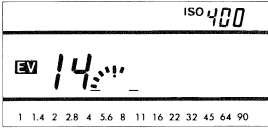
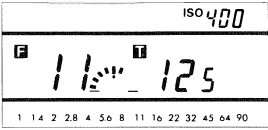
図A

1 電源スイッチ⑥をONにします。

2 露出計本体を正しく保持し測光スイッチ⑦を押します。

3 そのとき表示されたタイムと絞りの組合せが適正露出になります。

- この露出計は測光スイッチを押している間測光値は明るさに応じて変化します。
- 測光スイッチを離したときの表示は、オートオフ又は電源スイッチOFFまでロックされています。

2 測定範囲外の表示

下図の表示が測定範囲外の表示です。

※上図のような表示がされた場合F/EVキーでEV表示に変換して測定値が表示されれば、タイム変換によってTとFの組合せ表示ができます。
※EV表示でもEU EOであれば測定範囲外です。

3 測定後の演算

- フィルム感度を変更する場合は、測定後、ISOの変換により測定値の演算が自動的に行なわれます。
- 測定後タイムの変換をするとF値の演算が自動的に行なわれます。
- F/EVキー④を押すことによってF・Tの組合せ表示、EV値演算切換表示がされます。

図A表示よりISO100と400に変換した例（F8がF16に変わる）

4 ムービーカメラの場合

- 測定は通常の場合と同じです。表からコマ数(8、16、32……) に対応した、シャッター速度をセットして測定してください。
- なお、中間の12、18、24コマなどは表の補正量を参考にフィルム感度(ISO)で補正の上測定願います。

ムービーコマ数	8	12	16	18	24	32	64	128
シャッター速度(T)	15	1/30			1/60		1/125	1/250
補　正　量	0	+1/3	0	−1/3	+1/3	0	0	0

- −1/3補正：使用するISO感度より1つ小さい値にセットします。(例 ISO40→ISO32)
- +1/3補正：使用するISO感度より1つ大きい値にセットします。(例 ISO40→ISO50)

入射光式測定の場合

- この方法は被写体に当る明るさを直接測る方法です。ほとんどの被写体に対して明暗比を忠実に再現し画面全体が自然な調子で描写できる露出が簡単に得られます。
- 入射光式測定は被写体のバックの影響を受けず被写体に対して平均的な露出値を求める時に適しています。

A 光球①を用いて

- ポートレートその他立体的な被写体を撮影するときに用います。
- スタジオ等で人工光で撮影するときはかならず被写体位置に露出計をおき光球をカメラの光軸方向に向けて測定してください。

- 自然光(太陽光)で撮影するときは被写体とカメラの位置の光線状態が同じならカメラ位置で測定することができます。

※被写体が発光体の場合は光球白色平板では測定できません。

B 白色平板⑩を用いて

照明コントラストの測定

多灯ライティングを行い主光源、補助光源等で被写体にコントラストをつけると明暗比のある立体的な写真を撮ることができます。

1 測定モードをEVモードにします。

2 被写体位置で白色平板を主光源に向けて測定し、そのときのEV値を読みとります。

3 次に被写体位置で白色平板を補助光源に向けて測定します。
（このときは主光源を消してください）

4 図のように主光源と補助光源の差は、2EVでコントラスト比は4：1になります。

EV目盛の差	コントラスト比
1	2：1
1 ½	3：1
2	4：1
3	8：1
4	16：1
5	32：1

5 露出の決定は光球をつけて主光源、補助光源を点灯させて光球をカメラの光軸に向けて絞りとタイムの組合せ測定を行います。

反射光式測定の場合

- この方法は被写体の反射光を測る方法です。

測定方法

カメラ位置、又はカメラ位置方向から被写体の測定したいヶ所に光角度板⑫を正しく向けて測定してください。

Aで測定してください。
近づけないときはBでも構いません。

- ポートレートの場合はできるだけ近づいて顔の部分を測定してください。
屋外で太陽光で測定の場合カメラ位置でご自分の手の平を被写体と同じ光線状態にし測定してもかまいません。
- 一般風景の場合は、標準反射板(18%)を利用してカメラ位置で被写体と同じ光線状態にして測定してください。
- 発光体(ネオンサイン等)や透過光の場合は入射光式では測定できませんので、反射光式で測定してください。

簡易照度計として測定の場合

照度(ルクス)の測定

白色平板⑪を使用して簡易照度計として概略の照度を測定することができます。

1 ISOを100、EV測定モードにセットします。

2 白色平板と測定面と平行にして測光スイッチ⑦を押します。

3 測光されたEV値より計算で求めることができます。

照度(LX)$=3.4\times2^{EV}$

(例)図の値ではEV9.5

$LX=3.4\times2^{9.5}=3.4\times724\fallingdotseq2400LX$

又、下記簡易対比表よりも求められます。

小数＼整数	0	1	2	3	4	5	6	7	8
_ ・ _	3.4	6.8	14	27	54	108	218	435	870
･･! _	4.8	9.6	19.0	38	76	152	300	600	1200

9	10	11	12	13	14	15	16
1740	3500	7000	14000	28000	56000	111000	223000
2400	4800	9800	19600	39400	78800	157000	315000

アフターサービスについて

☆弊社の製品には一定の期間内無料修理をお引受けする保証書が添付されておりますので、記載事項をお確かめのうえ販売店よりお受取りください。なお保証書の再発行は致しませんので、取扱説明書と併せて大切に保管してください。

● 無料保障期間などについて

①無料保障期間はお買上げ日より1ヵ年間でございます。
②保証書にお買上げ日および販売店名のないものは保証の対象になりませんので、必ずお確かめください。
③無料保証期間内でも有料修理となる場合もございますので、保証書の記載事項をお確かめください。
④保証期間経過後の修理は有料となります。また、運賃諸掛りはお客様にご負担願います。

● 補修用性能部品の保有期間などについて

①補修用性能部品は5年間を目安に保有しております。したがって、本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお故障箇所によりましては期間が過ぎても修理可能の場合もありますのでサービスセンターにお問合せください。
②修理可能期間はご使用の状態や環境、お手入の状態などによって異なる場合がありますので、現品をご持参のうえお買上げ店またはサービスセンターにご相談ください。
③修理可能期間内でも浸冠水、強度のショック、その他損傷のいちじるしいもので、修理後の機能維持に問題が残ると思われますものにつきましては修理不可能となる場合があります。

● 修理ご依頼時における留意事項

①修理品につきましては、故障内容を、またご指定の修理箇所があります場合には、その指定箇所をできるだけ具体的にお申し出ください。
ご指定のない場合には、各部点検をはじめ品質的、性能的に必要と認められるすべてのところを検査・調整・修理することになり、修理料金が加算される場合がありますのでご留意ください。
②修理をご依頼されたものの中には、単に電池を交換するだけで正常に作動する「故障していないもの」が見受けられます。電池の容量低下、⊕⊖の逆、定格違いなどについて、よくお確めください。

● 転居の場合の手続きについて

①転居で販売店にご依頼しにくい場合は、最寄りのサービスセンターにご相談ください。

● お問合せ先きについて

本製品の保証、修理、使い方などのお問合せは、最寄りのサービスセンターをご利用ください。

取扱上の注意

お買い上げいただいたSEKONIC DIGI LITE L-318は多くの電子部品で構成された精密電子機器ですので、下記の点にご注意ください。

a・落下、または急激な衝撃は絶対にさけてください。
b・極度の高温、多湿な場所には保管しないでください。
c・光球、白色平板は傷がつかないように、また常に清潔に保つようにしてください。
d・余分な電池の消もうを避けるため、使用時以外は、できるだけ電源スイッチをOFFにしてください。
e・この露出計の使用温度範囲は、0℃～+40℃です。

万一故障がおきましたときには、最寄の営業所、またはサービス・センターにお持ちください。
お近くに、営業所またはサービス・センターがなく郵送される場合には厚さ3cm以上の衝撃よけパッキングに包んでから、段ボールなどで梱包してください。

〈本社・営業部〉 東京都練馬区大泉学園町7-24-14
〒177 ☎03(978)2330(営業直通)
〈大阪営業所〉 大阪市東区本町2-25 本町ビジネスビル
〒541 ☎06(263)1571
〈名古屋営業所〉 名古屋市中区栄5-8-14 万国ビル
〒460 ☎052(251)6201
〈東京サービスセンター〉 東京都新宿区市ヶ谷田町3-8 新杵ビル
〒162 ☎03(269)7241